みんなで支える森林づくり北信地域会議（第１回）概要

１　開催日時　平成 23 年６月 24 日（金）午後 13 時 30 分から 15 時 15 分まで

２　開催場所　中野市大字壁田　北信州森林組合　２階　「創森館」

３　出席者　　委員　８名

◎竹節　義孝　　山ノ内町長

髙森　壽實夫　北信州森林組合長

桑原　重雄　　栄村森林組合長

宮崎　正毅　　NPO 法人　北信州の森林と家をつなぐ会　代表理事

高坂　光浩　　みどりの少年団北信地区協議会長

竹節　高四郎　自然公園指導員

佐藤　勝志　　北信猟友会

笹岡　紀美雄　指導林家

※オブザーバー　中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村
北信州森林組合、栄村森林組合

※一般傍聴者　　１名

※報道関係者　　北信タイムス

４　開会

（１）あいさつ　　窪田北信地方事務所長

（２）委嘱状の交付　高坂委員（人事異動に伴う委嘱）

５　会議事項

（１）平成 20～22 年度長野県森林づくり県民税活用事業の実施状況について

ア　森林づくり県民税活用事業１「手入れの遅れている里山での間伐の推進」について

イ　森林づくり県民税活用事業３「木育推進事業」について

ウ　森林づくり県民税活用事業２「森林づくり推進支援金」について

（２）平成 23 年度長野県森林づくり県民税活用事業計画（案）について

（３）報告事項

ア　地域材の利用推進について

（４）意見交換【市町村・森林組合担当者がオブザーバー出席し、各事業の進捗状況等について説明】

◆中野市

・平成 22 年度は緩衝帯整備が中心で、農作物の被害防止のための電気柵も設置した。

・イノシシ対策がメインだが、対策を行わない隣接地域で被害が多く発生し、その周辺では捕獲頭数も増えた。緩衝帯の整備は効果がある。地域のお年寄りからも、「昔の時代に戻ってきた。」との評価をいただいている。「山の手入れに行きたくなった。」との声もある。家族内での絆、集落内での絆も深まってきたのではないか。自助、共助の精神が芽生えてきた。

・松くい虫被害対策の予算も減少傾向にある中、税事業で対策が実施することができ、市の財政面で助かっている。間伐が進んだ森林では、松くい虫被害も減少しているように思う。健全な松林、マツタケが出る健全な松林を目指したい。

◆飯山市

・所有者の負担軽減のための補助金嵩上げが中心で、長嶺運動公園の近くのカシノナガキクイムシ被害

対策を行ってきた。
◆山ノ内町
・間伐事業への補助金嵩上げが中心。
・小学校で木育を行った。重機（高性能林業機械）での間伐作業を見学したが、この作業が大変印象に残ったようで、木片を大事に持ち帰った子供が多数見受けられた。
◆木島平村
・間伐材を使用した机（テーブル）やイスの製作、公共施設等の「見える場所」への設置を行った。役場の入口に設置した木製テーブルやイスは大変好評で問い合わせも多く寄せられた。
・小学校で間伐材を利用して「Ｍｙ箸」作りや木馬作りを実施した。「木育」という観点でみると有効であったと考える。
◆野沢温泉村
・間伐事業への補助金嵩上げが中心で、これまで森林整備に関心を示さなかった住民にも浸透してきたように思える。
◆栄村
・震災へのさまざまなご支援に感謝申し上げる。
・里山の整備が進み、他地区からも希望が寄せられるようになった。ただし、栄村の「里山」には人工林が少ないのが難点である。
・カシノナガキクイムシの拡大が懸念され、特に積雪や暴風による枝折れなどが心配される。枯損木処理にも力を入れて行きたい。

【前年度までの事業について】
◇高森委員
・県民税を活用したこの事業は、大変ありがたい事業だと言える。森林整備を実施するための集約化に力が入る。集約化した団地も 1,000ha 超えた。
・市町村からの報告があったとおり、地域住民の方々が山（森林）に関心を持ってきた。少しやる気になった、という声も聞こえてくる。
◇高坂委員
・この地域で、年間どのくらいの規模が集約化されているのか。
◇事務局
・48,000ha の森林に対し、集約化された森林は僅かではあるが、森林整備の必要性等が所有者を含む地域住民に浸透してきている。
・当管内の森林組合では、ＧＰＳを活用して過去の施業履歴と位置情報をセットで記録し、所有者が継続的に森林整備を行えるようアドバイスするといった取り組みをしている。これにより森林所有者の世代交代があっても、適期に的確な森林整備の提案をしていくことが可能となる。
◇宮崎委員
・一般の人の森林税に対する認識が少ないように思える。何をやっているのか見えない。一般の人の目に付く事業が少ないのではないか。森林税を納めている人たちへのＰＲが必要ではないか。
◇事務局
・視覚で訴えたい。県のホームページにも積極的に掲載しているが、むしろブログに重点を置き、頻繁に更新している。

・森林整備を実施した箇所には、横断幕をつけてＰＲしている。横断幕については、数を増やせないか検討していく。集落や道路から目につきやすいところへ横断幕等を設置するよう進めて行きたい。ＰＲについては、今後も努力したい。
◇座長
・標柱みたいなものを立てたらどうか。事務局や市町村で検討していただきたい。自分たちへの意識付けにもなる。
◇高森委員
・一般家庭において、ホームページを見る人は案外少ない。「緑の募金」のチラシは全戸配布なので、同様の対応ができないか検討したらどうか。
◇座長
・世代を超えて PR すると効果があるので、統一した標識を作ったらどうか。
◇佐藤委員
・道路沿いで事業をしているが、一見何の事業かがわかりにくい。やはり何かの標識は必要では。年寄りはホームページを見ない。
◇事務局
・看板を作製し、所々に設置しているが、十分に行き渡ってはいないと思う。横断幕などを目立たせる工夫をしていきたい。

【本年度の事業について】
◇桑原委員
・栄村森林組合としては、高性能林業機械の導入や機械を使った技術を高めて行きたい。
◇竹節委員
・できるだけ強い山（災害に強い山）を作っていただきたい。長伐期計画を設定して間伐を進めるのもいいが、「伐ったら植える」という本来の「林業」の姿に戻していくことも必要ではないか。Ｃｏ２削減にもつながる。
◇笹岡委員
・今年の山ノ内町での事業はどういうものか。
◇山ノ内町
・地域住民や観光客に「木材の良さ」が伝えられるよう役場庁舎の木質化や湯田中駅に間伐材を利用した木造観光案内所を設置するなど、できるだけＰＲから消費（間伐材の利活用）につなげて行きたい。
◇宮崎委員
・ペレットストーブ本体は購入できるのか。
◇山ノ内町
・購入は可能です。燃料がペレット専用のタイプとペレットと薪の併用できるタイプのどちらを購入するか検討していきたい。
◇高坂委員
・近年はクマの出没が多く、子供たちに「山に行って遊びなさい。」とは言えない。
・学校内で子供たちは木に親しんでいる。
・木育事業について、裾野を広げていただけないか。３年前に「箸作り」を行ったことがあり、大変役に立った。

◇事務局

・地域の要望で飯山市の其綿団地に管内で最初の税事業を導入した。地域の声（要望）を取り入れて事業を進めていきたい。

・子供たちが木に触れることが重要なので、森林整備で出た間伐材を有効に活用していきたい。

◇佐藤委員

・緩衝帯の整備について、確かにイノシシの出没は減ってくるが、事業をやっていない箇所に出没が集中してしまうので、端の方から順番に計画的に実施してほしい。

◇中野市

・「緩衝帯整備」とは言うものの、結局のところ「人間関係の整備」になってしまう。こちらを立てれば、あちらが立たず・・・で、どうにもならないケースが多い。利害関係の調整に気を遣うものである。

・国では 10 割補助といいながら、実際には 3 割程度の補助であるため、どうしてもできない部分が生じてしまう。市町村でも連携して取り組んでいく必要があのではないか。

窪田 北信地方事務所長 あいさつ

高坂委員 新任あいさつ

事業実績及び23年度計画の説明（事務局）

事業実績及び23年度計画の説明（事務局）

意見交換の状況

意見交換の状況